

米集荷運動開始！



7月28日、JA福井市管内の大安寺、本郷地区にて、今年度産の米の集荷運動が行われました。JA福井市の豊岡英二理事長をはじめ、TAC、経済連職員が担い手農家を訪問し、JAグループへの米の出荷協力を求めました。

今年の稲の生育状況をはじめ、米の価格低下がすすむ現状の中での生産資材にかかる経費の問題、TPP問題、地域の農業事情など、様々な現場の声を聞くことができました。また秋の田起こし運動として、稲わらの鋤き込み、土づくり資材の啓蒙を推進し、担い手の理解を求めました。

同じように、7月31日にはJAはるえにおいて小林清崇組合長、國影年光専務が分れて営農課長、TAC、県連職員と同行訪問を行いました。JA福井市・JAはるえともに、担い手農家へ直接JAの常勤役員が訪問することにより、ひざを交えた会話をすることが出来とても有意義な訪問となりました。

米集荷運動は、7月から収穫前まで県下JAにてTACと経済連職員の同行訪問として取り組んでおり、収穫後には米集荷の積み上げ運動を予定しています。

働き手が集まる 魅力ある組織づくり研修会

7月16日にNOSAI福井にて「働き手が集まる魅力ある組織づくり研修会」が開催されました。この研修会は、福井県内における農業雇用環境の改善を目的として、収益アップにつながる就業規則や法人化、6次産業化について学ぶものでした。

参加対象者は、法人化を目指す事業者・個人経営者や、既に法人化した組織の構成員、ならびに一般担い手農家ということで、当日は約50名の生産者・JA指導員が集まりました。

冒頭では福井県生産振興課より、「今後の集落営農・法人組織の取り組み」と題して、福井県内の法人化の取り組みや現状について説明して頂きました。

講演者は、(株)オーレンスパートナーズという北海道で農業経営コンサルティング事業を行っている方たちで、前半は就業規則の必要性、農業における労働基準法、資金体系について、後半は法人化することのメリット・デメリット、目的、社会保険の加入、助成金の活用について具体的に説明して頂きました。



ニンニク収穫支援 JA吉田郡

6月18日、JA吉田郡の上志比地区にて、福井農林高校生産流通科の生徒によるニンニク収穫支援が行われました。農林高校との共同の取組みは10年以上行っており、毎年10月の植え付けと6月の収穫に来てもらっているそうです。

当日は上志比ショッピングプラザメイトで開会式があり、その後2つの圃場に分かれて作業が行われました。圃場には収穫を終えたニンニクが籠に入っており、最初に生産者の方よりニンニクの根切りの仕方や作業のコツ等の説明がなされました。生徒たちは根切り専用の鋏を使いながら、苦戦しつつも黙々と作業に取り組んでいました。



「ニンニク生産技術研究会」の南保秀樹会長に話を伺いました！



栽培歴35～36年目。1町1村1品目運動として、上志比地区でニンニクを作り始めた頃からずっと栽培に携わっておられます。始めた当初は、ニンニクを栽培しているところがなく、全てが手作業。収量も少なかったそうです。現在は機械の導入が進み、反1トンと平均的な収量があるということでした。

今年のニンニクは、天候にも恵まれ予定より良い出来具合だと、南保会長は笑顔で話されていました。

加工所にて

加工所では、生産者の思いの詰まったニンニクが、S～2Lと様々な規格サイズに仕分けられています。出荷されたニンニクは、乾燥機で2週間かけて水分を100%→13%まで落とした後、-2℃の保管庫で保存されます。この-2℃という温度はニンニクが凍らず、芽も出ない適切な温度なのだそうです。



ふれあい特産市 in 越前丹生 & 吉田郡開催！



5月に開催されたJA敦賀美方に引き続き、2回目となる「ふれあい特産市」が、6月25日JA越前丹生の丹生膳野菜前広場で開催されました。「旬の野菜DE朝ごはんを応援！！」というタイトルのもと、丹生産の織田きゅうりやキャベツ、ほうれん草をはじめ、県内の旬の野菜が膳野菜にて販売されました。

また、県中央会のキッチンカーを活用し、来場者に梅とひじきのたきこみご飯、新タマネギとミョウガの味噌汁が振る舞われました。その他、朝ごはんに関するアンケート調査や、福井米消費拡大の一環として、県JAが手軽に作れる朝ごはんを紹介する冊子「ふくい朝ごはんレシピ」が配布されました。



店頭ではJA越前丹生の五位山納豆、小松菜や白菜等を使用した漬物、県経済連からは麦とろそばの試食販売に加え、花咲ふくいの大玉スイカやマルセイユメロン、県漁連による旬の魚介類など、普段膳野菜では買えない品目の販売も行われ、晴天の中、多くの買い物客で賑わいました。

7月23日には、JA吉田郡れんげの里にて「ふれあい特産市」が開かれました。当日は雨が降っていましたが、直売所は多くの買い物客でにぎわいました。

直売所正面では、JA吉田郡の新商品「ガーリックソース」がメインで置かれていました。地元特産品であるニンニクとピクニックコーンを使用した手作りソースで、味は5種類！それぞれ試食があり、味を楽しむことができました。キッチンカーでは、同じくピクニックコーンが入った炊き込みご飯と卵入りお味噌汁がふるまわれ、多くの買い物客が試食していました。ご飯にピクニックコーンが入ったことで甘くなり、子供たちも最後までおいしそうに平らげていました。



次回 特産市 8月27日（木）JA花咲ふくい きららの丘で開催！

キャベツの契約栽培研修会

6月9日に経済連総合施設センターにて、福井農林水産支援センター・経済連主催の「加工・業務用キャベツの栽培研修会」が開催されました。県・JA・生産者・中央会・経済連合わせて総勢55名の参加となりました。



県農林水産部地域農業課の福田主任、経済連園芸特産課の大西課長を講師に、「秋冬キャベツ生産技術」、「キャベツの契約栽培の取組み」について講義が行われました。「秋冬キャベツ生産技術」の講義では、栽培の流れやポイント、昨年度の実施例等が実際の写真を見ながら解説されました。「キャベツの契約栽培の取組み」の講義では、今回初の取組みとなる「JAにて50円（税込）/kg買取」の契約栽培の流れや、取組む理由について細かく説明がなされ、皆さん熱心にメモを取りながら聞いていました。

その後の質疑応答では、生産者の方々から様々な質問があり、有意義な研修会となりました。

キャベツ生産法人紹介！

県内では、経済連の加工用キャベツに取り組まれる農家の方々が増えてきています。今回、初めて水田園芸キャベツに挑戦する「(農法)サンライズ桑原」(金津地区)の取組状況をご紹介します。

こちらでは5月初めには関係者一同が集まる場を設け、坂井農林総合事務所の指導のもと入念に栽培計画をたてていきました。定植・収穫時期、品種、苗の購入・自家栽培、肥料、農薬、機械、作業者等を決めていきました。

そして作業時には毎回県の方が来て、細かい指導をして頂きました。作業内容によっては肥料農薬関係者や農業機械関係者も訪れ、みんな一丸となって立派なキャベツ作りに取り組んでいます。

とりあえずは定植まで無事終わることが出来ました。今後は灌水と防除に気を配りながらキャベツが大きくなるのを見守っていきます。

主なスケジュール

5月8日	第1回打合せ
6月8日	第2回打合せ
6月16日	明渠・補助暗渠
7月6日	キャベツ播種
7月22日	肥料散布
7月26日	畝立て
7月27日	定植

圃場設計

品 種：おきな 肥 料：スパー・スマート+ケイ酸加里 除草剤：ラウンドアップ	品 種：万代 肥 料：みどり名人 除草剤：ラウンドアップ	11畝
品 種：おきな 肥 料：あさひ+そ菜5号 除草剤：ラウンドアップ	品 種：万代 肥 料：みどり名人 除草剤：ラウンドアップ	
品 種：冬のぼり 肥 料：みどり名人 除草剤：なし	品 種：冬のぼり 肥 料：みどり名人 除草剤：ラウンドアップ	

20 m

50 m



農業機械実演会

開催！

7月29日に三方地区のキャベツ圃場にて農業機械実演会が行われました。JA 敦賀美方管内の生産者および関係者 40 名が集まりました。

キセキの施肥機付畝たて形成機、定植機、ハイクロブームスプレーヤが揃い、実演が行われました。この施肥機付畝たて形成機は、畝たてと同時に肥料も散布でき、散布場所も畝の中のみとなるので、施肥を無駄を省くことができるそうです。また GPS による車速連動施肥機搭載のため、均一に一定量の肥料を撒くことができるという優れものです。

定植機は 2 条植・1 条植と 2 台用意されていました。ハイクロブームスプレーヤは圃場には入らず眺めただけですが、キャタピラは作物の種類に合わせて高さを 5 段階（650～910mm）で変更できるというものでした。

今日は明け方にかけて雨が降り、圃場は水分を含んだ状態となったため、畝たてがうまくできるか心配していましたが、きれいな畝をたてることができ、定植も無事終わりました。



第6回 福井県中古農機合同フェア開催！



7月25日に福井県産業会館 1 号展示場にて、第 6 回福井県中古農機合同フェアが開催されました。当日は 574 名の生産者が来場し、様々な中古農機を見て回られました。農機メーカーの方々や経済連、JA 職員も参加し、会場は常に人がいっぱいでした。

キセキ、クボタ、三菱、ヤンマーのメーカー機が揃い、トラクタやコンバイン、田植え機、耕うん機など、全部で 137 台の中古農機が展示されました。

生産者は、時間をかけて吟味しながら多くの機械を見て回られ、その場で契約されている姿も見られました。その他、生産者と農機販売者との間で農業情勢や農機の更新などについて情報交換もなされ、実りある 1 日となりました。



JA福井市 担い手後継者研修会

7月21日（火）福井市内において JA 福井市担い手後継者研修会が開催されました。当日は関係者も合わせ約 30 名の出席がありました。

冒頭、伊坂常務より、「TPP について今月 31 日に関係閣僚会議があり、妥協点を見出しながら対応を決めていく段階に入ってきたが、重要 5 品目は死守していかなければならないこと」、また出席者に対しての日頃のお礼が述べられました。



研修会に入り、福井農林総合事務所 田野井主任より、「水稻・雑穀の現状と今後の管理」について説明があった後、株式会社八百五商店 松尾専務より、「最近の野菜を巡る動きと福井市産地への期待」と題し講演がありました。

福井の飲食業界ではコスト重視がより顕著になっている反面、地元特産の吉川なす、美山の赤かぶらの人気があること。首都圏では、食べるお花、白いきゅうり、カラフルミニニンジン等が出回っており、特に料理人には、少量多品目のセットが喜ばれる等興味深い話で出席者一同聞き入っていました。

交流会でも活発な意見交換がなされ有意義な研修会でした。

JA花咲ふくい 水田農業経営協議会研修会

7月27日（月）JA 花咲ふくい平成 27 年度水田農業経営協議会研修会が坂井市内で開催されました。当日は担い手農家他・関係者等約 130 名の出席がありました。

開会にあたり富田組合長より、「アメリカから 7～10 万トン米が輸入されることが予測される。担い手は益々経営感覚を身に付けていかねばならない。今日の研修をその一助としていただきたい。」と挨拶がありました。

次に、米穀販売課の佐川課長より 26 年産米の集荷実績は 284,000 俵余、27 年産米の集荷目標は 300,000 俵とすること、27 年産米の販売環境も依然として厳しい状態であることが説明されました。



営農指導課斉藤課長からは、水田土壌分析結果について説明があり、管内全体でリン酸、ケイ酸が不足していることや、ケイ酸の重要性について説明がありました。その他、担い手農家と役員・部課長との意見交換会、(株)日本政策金融公庫 福井支店山口課長による「経営分析に基づく新たな経営改善に向けて」等がありました。

質疑応答も活発にされ、有意義な研修となりました。

キャンペーン期間

平成28年 1月31日まで

担い手の
皆様へ



格納庫キャンペーン

お見積り
ご相談
無料!!

- ・窓 2カ所
 - ・出入口 1カ所
 - ・土間コンクリート
(前土間1間含む)
 - ・標準工事費 込み
- 電気・給排水接続
外構工事は別途とします。

特別価格

積雪2m対応!!

※こちらはイメージです

日成フレッシュ 25・3H×3K

9坪(間口5.4m×奥行5.4m)

(税込)

3,880,000円~

880,000円 お得!!

日成フレッシュ 25・3.5H×5K

17.5坪(間口9.0m×奥行6.3m)

(税込)

5,680,000円~

1,500,000円 お得!!

日成フレッシュ 25・4H×7K

24.5坪(間口12.6m×奥行7.2m)

(税込)

7,280,000円~

3,000,000円 お得!!



建築条件ならびに資材価格に著しい変動がある場合、工事費が変動します。詳しくは担当者にお問い合わせ下さい。
平成28年1月31日までに契約出来る方が対象となります。

●お問合せは 安心・安全の
最寄の各JA本店(所)
又は、各支店(所)まで

お応えします。福井の住まい。

 住宅



新発売

麦とろろ麺

麦とろろそば

福井県産
そば粉・大麦粉
使用!

福井県産
大麦粉使用!



正常な米粒

斑点米カメムシの徹底防除には

スタークル

とどめの3回防除で品質ガード!

1回目 出穂期
2回目 穂揃期
3回目 収穫7日前

従来

重要

お買い求めは、お近くのJAで。

お買い求めは、お近くのJAで。

10アールあたり3kgに散布してください

粒 粉

STOP!

カメムシ被害、斑点米

80

良いお米には理由がある!

それが秋の田起こし!

ポイント
1

土づくり肥料 の施用!



土づくり肥料効果 3つのポイント



農家さんの声

農事組合法人 ファイン・ファーム・しもなか
代表理事組合長 竹内 正宏氏

「農の根幹は土づくり」田んぼは正直です。土づくりをして手をかければかけるほど、作物は品質も収量も向上します。土づくりをしたお米は粒が大きく、異常気象の年でも例年と変わらないくらいとれましたよ。「みんなで取り組みましょう、土づくり」



ポイント
2

稲ワラの 鋤き込み!



地温が高い秋に田起こしを行い、稲ワラを鋤き込むことによって腐熟が進み、
稲作に適した有機質の土になります!

